世良 将生 議員

Q 防災士の現状は

A 町　長

積極的な活動はできていない。防災士の方が集まり、活動できる環境づくりに努める。

【Ｑ１】

本年度の防災士の募集状況と課題は。

【Ａ１】

現在自治会等からの推薦による応募は８名ある。家庭での事前学習、会場での２日間の研修、救急救命講習、試験など色々とスケジュール調整することが多く、受講に向けての調整が難しいのではないかと感じている。

【Ｑ２】

防災士の養成を続けているが町内14自治会すべてに防災士が在籍しているか。

【Ａ２】

西部地区の３つの自治会において、防災士の資格取得者がいないことを確認している。引き続き各自治会長には、防災士の養成講座への推薦をお願いする。

【Ｑ３】

防災士の資格取得者は、町内に30人程度と熊野町内の正確な人数は不明ということだが、広島県内の防災士認証登録者数は把握しているか。

【Ａ３】

８月末現在で、広島県として6,066人が認証登録されている。全国では８月末現在で26万2,166人が認証されており、８月だけでも1,600人が認定されている。

Q 自主防災組織に防災士がいることのメリットは

A 住民生活部長

防災士が地域にいることは、とても心強い。

【Ｑ１】

広島市では任意ではあるが、防災士の資格取得後最初の３年間を目安に年に１回、定型の書式に従って活動状況を報告するように求めているそうだが、熊野町の防災士の現状は。

【Ａ１】

現在、熊野町の防災士には活動報告は求めていない。資格取得後、３年程度は防災士としての活動をお願いする程度に留まっている状況である。

【Ｑ２】

梅雨時期の大雨等、台風シーズンで避難指示が出た後に、消防団や自主防災組織、防災士と共に会議を開催し、意見交換などを行うべきと考えるが。

【Ａ２】

専門的な知識を持った方々との意見交換はとても有意義であると考える。これらの方々に対しての研修なども今後実施したい。

【Ｑ３】

防災士の人数が充実すれば自治会単位の自主防災組織のような大きな組織よりも、各団地ごとの小さな地区単位で自主防災組織を作り、そこへ防災士を配属してはどうか。

【Ａ３】

現在調整中だが、まずは自治会単位の大きな組織に対して自主防災組織を結成してもらい、その後そこから枝分かれするように団地単位や各自治会での班体制を活用するなどして、小さな組織を作っていくことができればと考える。

Q 熊野町民夏祭りの継続を

A 町　長

町民、地域のコミュニティづくりとして来年も実施したい。

尺田 耕平 議員

【Ｑ１】

８月に開催された夏祭りは、小さな子供から子育て世代くらいまでの若い世代の来場者が多く、予想以上に活気があり、大成功だったと思う。

熊野町の大きなイベントといえば、「筆祭り」だが、これは、町内の方に対するイベントというよりも、町外の方を呼び込み、熊野町と熊野筆の PR をすることを大きな目的としたものだと私は思っている。

昔は町内各所で、賑やかなお祭りもあったが、現在では規模を縮小されたり、消滅している状況であり、長い間、このような町内全域の住民を対象とした賑やかなイベントがなかった。

今回のイベント開催は、町民間の親睦、地域の絆の観点から町の活性化を図った、地域コミュニティの醸成に大きく寄与したものと思っている。

地域振興事業として位置付け、一過性のものに止めず、毎年恒例の行事として、是非、継続していただきたいがいかがか。

【Ａ１】

夏祭りの開催後「来年も実施していただきたい」という声が多く事業に対する評価は高かったと認識している。

財源については、企業版ふるさと納税を活用することとし、ない場合は一般のふるさと納税を充当し、規模としては今年以上のものにするのではなく、長く続くように今年と同程度で持続可能な規模で開催することを考えていきたい。

Q 立地適正化計画を実現するため民間活力を

A 建設農林部長

町の根幹となる県道矢野安浦線バイパスの沿道は民間活力を活用し町づくりをしたい。

荒瀧 穂積 議員

【Ｑ１】

町は今、２年をかけて専門家をメンバーに、立地適正化計画を策定している。

人口減、公共交通など課題を整理し持続可能なまちづくりが求められている。

県道バイパス延伸先、呉地八幡風呂西エリアに約 8,000 坪の未開発地がある。

道づくりはまちづくり。実現のために民間活力を連携活用しては。

【Ａ１】

県道矢野安浦線は町の根幹として民間活力を活用しながら、持続可能なまちづくりを推進していく。

▲県道矢野安浦線バイパスの供用開始区間